

2015 年 12 月

東北大学高度教養教育・学生支援機構は、2014 年 4 月に学内 6 組織を統合し、高度教養教育、学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための施設として創設されました。その中でも、現在取り組んでいるのは、教養教育の再構築のための調査、研究、教育内容・科目の開発です。その一環として、機構編集委員会では、紀要の特集を「学士課程教育」と設定し、機構の内外から広く原稿を募集することといたしました。

周知のように、日本の学士課程教育は、共通・教養教育および専門教育の 2 区分によって構成されています。大学設置基準大綱化以後も引き続くこの構造は、いま大きな転換期にあります。高等教育の多様化と入学生の学力・意欲と大学教育との接続を図るための初年次教育の導入と拡大、高等教育のグローバル化のもとでの留学生の増加や送り出しのための語学教育の強化の必要性、情報教育など新たなスキルの提供など多様なニーズが共通・教養教育に期待される一方、爆発的な知の生産を大学教育に装備するために、専門教育も大学院教育への移行準備や、学士課程前期への前倒しなど、学士課程教育全体が複雑かつ多様な課題の集積点になっています。経済学、社会学、心理学など人文・社会科学においても高度な数理処理能力が求められているにもかかわらず、高校までの文系理系区分による数学科目の選択制が、深刻な問題をもたらしていることも大きな問題です。

また、高度化した科学と技術が自然に大きな負荷までもたらし、国境を越えて人間・知識・商品・資本が移動するグローバル社会において求められる教養が、3 系列均等履修方式を引き継ぐ共通・教養教育の枠組みで育成されるかも、根本的な問題にあげられるでしょう。

以上のような問題意識のもとで、現代における学士課程教育の在り方に関する論考を広く募集いたします。論考は、教養教育、専門教育、初年次教育、リメディアル教育、入試選抜、ラーニングコモンズ、学習支援など学士課程教育に関するものであれば、特に制限はありません。ぜひ投稿を期待しております。

なお、投稿要領を参照の上、投稿票とあわせ、要領に従った投稿をお願いします。また、東北大学高度教養教育・学生支援機構の紀要は、査読制を導入しており、査読の結果、修正を求めたり、水準に達しないと判定された場合には、掲載されない場合もあります。あらかじめ、ご了解ください。

担当編集者

東北大学高度教養教育・学生支援機構 副機構長

羽田 貴史